認知障害（認知症・痴呆）

ワンちゃんも老化をし、認知症や痴呆の様な状態になることがあります。この場合、夜鳴きや徘徊、行動の変化など様々な変化が認められる様になります。

* 認知障害の５症候：DISHA
* Disorientation（D:見当識障害）
* socio-environmental Interaction change（I:社会性や周囲環境との関わりの変化）
* Sleep-wake cycle change（S:睡眠—覚醒周期の変化）
* House soiling（H:不適切な排泄）
* General Activity change（A:活動量や内容の変化）

具体的には、

* 徘徊
* なじみのある人や動物に対する認識が変化
* 夜鳴き・何もないまたは理由の分からない吠え
* 不適切な排泄
* 触られたり、撫でられたりするのを避ける
* 家具や物などの挟まって動けなくなる
* 壁や家具に向かって歩き続ける
* 飲まないにもかかわらず水入れのところで立ち止まっている

などなど

* 治療・アプローチ
* 行動学的エンリッチメント
	+ 規則的な運動
	+ 新しいおもちゃや、考えさせるおもちゃの給与（コングなど）
	+ 動物・人との関わりの増加
	+ 新しい動作のトレーニング
	+ 日中の覚醒時間の確保、夜間睡眠前の運動
* 食事・サプリメント
	+ 必須脂肪酸
	+ メラトニン
	+ ガゼピン
	+ 抗酸化剤
* 薬剤
	+ 抗不安薬
	+ 一部の抗てんかん薬
	+ 鎮静薬（寝せたい時に強引に眠らせる）
* 麻酔薬にもなりうるため、使用の際にはリスクを十分理解する必要があります。
* それぞれの行動へのアプローチ
* 夜鳴き・吠え
	+ 日中にしっかりと起こしておくことや、睡眠前の運動をすることで夜に睡眠しやすいような環境づくり
	+ 不安からの場合もあるので、近くで添い寝をしてあげることや飼い主さんの見える場所に寝床を用意する
	+ おやつなどで気を逸らす
	+ 空腹、トイレがしたい、水を飲みたい、痛みがあるなどの要求が無いかどうかを確認してあげる
	+ 場合によっては鎮静剤や睡眠薬の使用を検討
* 徘徊
	+ 戸締まりの徹底
	+ サークルでの管理
	+ 室内を徘徊しても安全な環境整備（危険物の回避、転倒防止マットなど）
* 排泄
	+ きちんと十分な排泄ができているか確認
	+ おむつの使用
	+ トレイの場所を増やす
	+ トイレのサインを汲み取る
* 攻撃行動
	+ 突然触らない（声をかけるなどしてから）
	+ 小さな子どもや動物は近づけない
* 寝たきり、行動の低下
	+ 散歩補助ハーネスなどを用いてお散歩や運動を行う。難しい場合はカートなどに載せて外を回ってくるだけでも十分な刺激になります
	+ 床ずれへの対応
		- 低反発マットの使用
		- こまめな体位の変更（２〜３時間おき）
		- 床ずれが起こった場合はすみやかに受診、管理方法を確認しておく

認知障害は進行性であり、次第には寝たきりの状態になってしまうことも少なくありません。また、介護の必要性は徐々に大きくなっていきます。なってからどうしようではなく、なった時にはどうするかを前もってかかりつけ医さんと相談・信頼関係を築いておくことを心がけておきましょう。

最も大切なのはお世話をするご家族のみなさまの体力・健康です。場合によっては老犬ホームなども検討してみることもありかもしれません。動物の事も去ることながら、人間が介護を続けられるようにすることがとても大切です。

その中で動物病院がお手伝いできることも沢山あると思います。ただ、動物病院に丸投げをしても何も解決にはなりません。ご家族、病院双方のチームワークで介護をしてあげることが大切です。

お困りの際には遠慮なくご相談ください。100点満点ではなくても必ずベターな選択肢はあると思いますので、それを一緒に模索していきましょう。